

ビワマスの標識放流魚調査(3⁺までの中間報告)

田中 秀具

◆背景・目的

ビワマスは増殖対策として毎年、2gサイズ、70万尾を目標に種苗放流が実施されている。より効果的な種苗放流方法の検討を目的に、2005年に大きさの異なる2種類の種苗に標識して放流した(下表1参照)。2009年まで再捕魚の確認を行う予定であるが、ここでは、その中間の概要を報告する。

◆成果の内容・特徴

- ・ 標識魚は2006年1月から確認でき、2008年11月現在、164尾が確認されており、その76.2%を大型種苗が占めた(表2)。
- ・ 現時点では大型種苗の方が放流効果が高いように思われるが、標識魚の主漁獲期の終期となる2009年までの再捕状況を見て判断する予定である。
- ・ 標識再捕魚の成長の様子を図1に示す。なお、標識再捕魚の体長は標識間で差はみられなかった。

◆成果の活用・留意点

- ・ 標識魚の漁獲(4⁺)が期待される2009年まで調査を継続する必要がある。

表1. 標識放流概要

	誕生年月	放流体重(g)	標識(切除部位)	放流尾数	放流場所	放流時期
小型種苗	2004年12月	2.70	脂鰭	20,000	知内川	2005年3月
大型種苗	2004年12月	11.40	脂鰭+腹鰭	19,056	琵琶湖	2005年6月

表2. 標識魚の再捕状況(2008年末)

期間	~2006年(1+)	2007年(2+)		2008年(3+)		合計(率)
	1~11月	1~9月	10~11月	1~9月	10~11月	
大型種苗	12	50	8	46	9	125(76.2%)
小型種苗	2	10	2	16	9	39(23.8%)

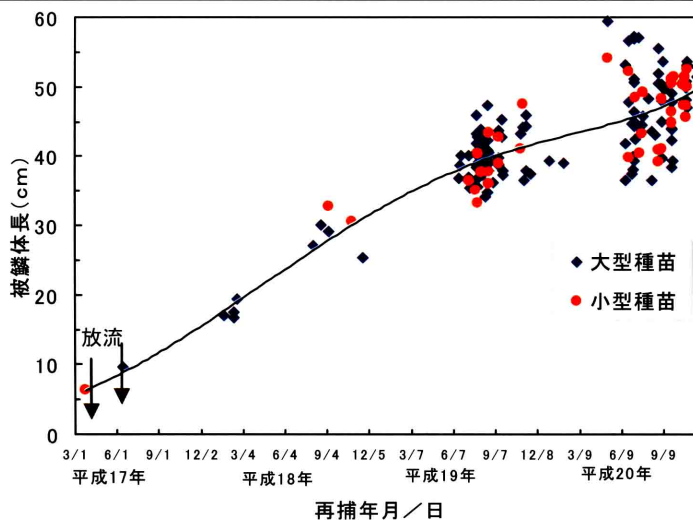


図1. 標識再捕魚の成長